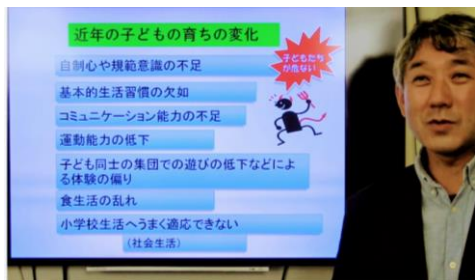


みどりかいだより 98号

鳴門教育大学附属幼稚園 みどり会広報部 2021.10.26発行

ペアレンツセミナーⅠ



演題 「附属幼稚園の教育」 ～幼児期の子育て ほめ方 しかり方～

講師 佐々木 晃 園長先生

2021年6月22日 (YouTube配信)



ペアレンツセミナー「附属幼稚園の教育 ～幼児期の子育て ほめ方 しかり方～」と題し、佐々木 晃園長先生より、先生ご自身の子育ての経験や教育現場での体験を交えて、私たちにとてもわかりやすくお話してくださいました。そして、現在子育て中の私たちに、子育ては価値ある社会貢献であると言葉をかけていただき、とても勇気づけられました。時代の変化と共に、とりまく環境等により子どもも変化してきており、それに合わせて学校教育も変わってきているようです。

特に近年、幼児期教育の重要性に注目が集まっています。親としては「お勉強」などのいわゆる「認知的能力」ばかりに目が行きがちですが、「真面目さ・粘り強さ、自制心、忍耐力、気概、首尾一貫性」のような、信頼される人間性の涵養に繋がる「非認知的能力」の就学前の幼児期教育が重要で、両方をバランスよく育てて行くことが大切であると教えていただきました。

附属幼稚園では、子どもたちの好きな遊びを、五感を通して、自然と共に、心ゆくまで楽しませていただいております。このような素晴らしい環境を準備していただき、子どもたちのたくましい身体と豊かな心が日々育まれていることに深く感謝しております。

また、今回は子育ての極意をお教えいただきました。

- 子どもの欲求のウォンツを見つめる
- うまく経験をさせてあげる
- ポジティブルールでいこう「～しましょう」「～したら～できます」
- その場、その場で評価する
- 短くしかり、長くほめる

子育てをしている今、うれしいことや困ったことなどいろいろありますが、伝え方を工夫することで、子どもも親も笑顔が増え自然と前向きになれるように学んだことを心がけていきたいと思いました。そして、今しかないこの時期を楽しんで、いい親子関係を築いていきたいです。園長先生にはいつも勇気づけられています。重ねて感謝申し上げます。



教育講演会

ペアレンツセミナーⅡ

演題 「保護者と歩む幼児教育」

講師 国立大学法人鳴門教育大学

理事・副学長 美馬 持仁 先生

2021年9月10日 (Web配信)



高等学校における教育現場に始まり、その後教育行政、教育委員会をご経験され、40年以上教育に携わられてきた教育のスペシャリストである美馬 持仁先生に、「保護者と歩む幼児教育」と題し、ご講演いただきました。

2つの例を基に「幼児教育の重要性と幼稚園の在り方」について、わかりやすく解説していただきました。

1つ目の例として、「小1プロブレム」を挙げられています。これは小学校に進学した際、環境の変化に順応できない問題であり、最終にこれが不登校や引きこもりに繋がっているとのことでした。この原因として、学校が安心でき、楽しく登校できる環境になっていないことや、この時期までに人間関係を形成する力が養われていないがために生じるものだと説明されています。こういった非認知能力のスキルは学校で教え込まれるものではなく、3～6歳の段階で遊びの中で学んだり、自然環境の中で身に付いていくもので、これらの土台を培うのが幼児教育であると教えていただきました。

2つ目の例として、「18歳の成人制度」の話がされています。高校を卒業してから成人になるまでの2年間の猶予がなくなるため、子どもたちを早く大人にしてやらなければならない。そして、ひとりの人間、大人として扱う準備を早期から始める一方、自身で判断・決断・考える機会を与えることの大切さも教えていただきました。また、そのコミュニケーション能力や忍耐力といったスキルの多くは、幼年期に培われるとのことでした。

実体験を交えて幼児教育の大切さ、この時期の幼児への関わりで意識する点などを分かりやすく教えてくださりとても勉強になりました。私たちは、子どもの教育を幼稚園だけに任せするのではなく、親も園での幼児教育に協力し、子どもたちが安心して幼稚園に通えるように取り組む必要があると思いました。このような、貴重なご講演をいただきましてありがとうございます。

